

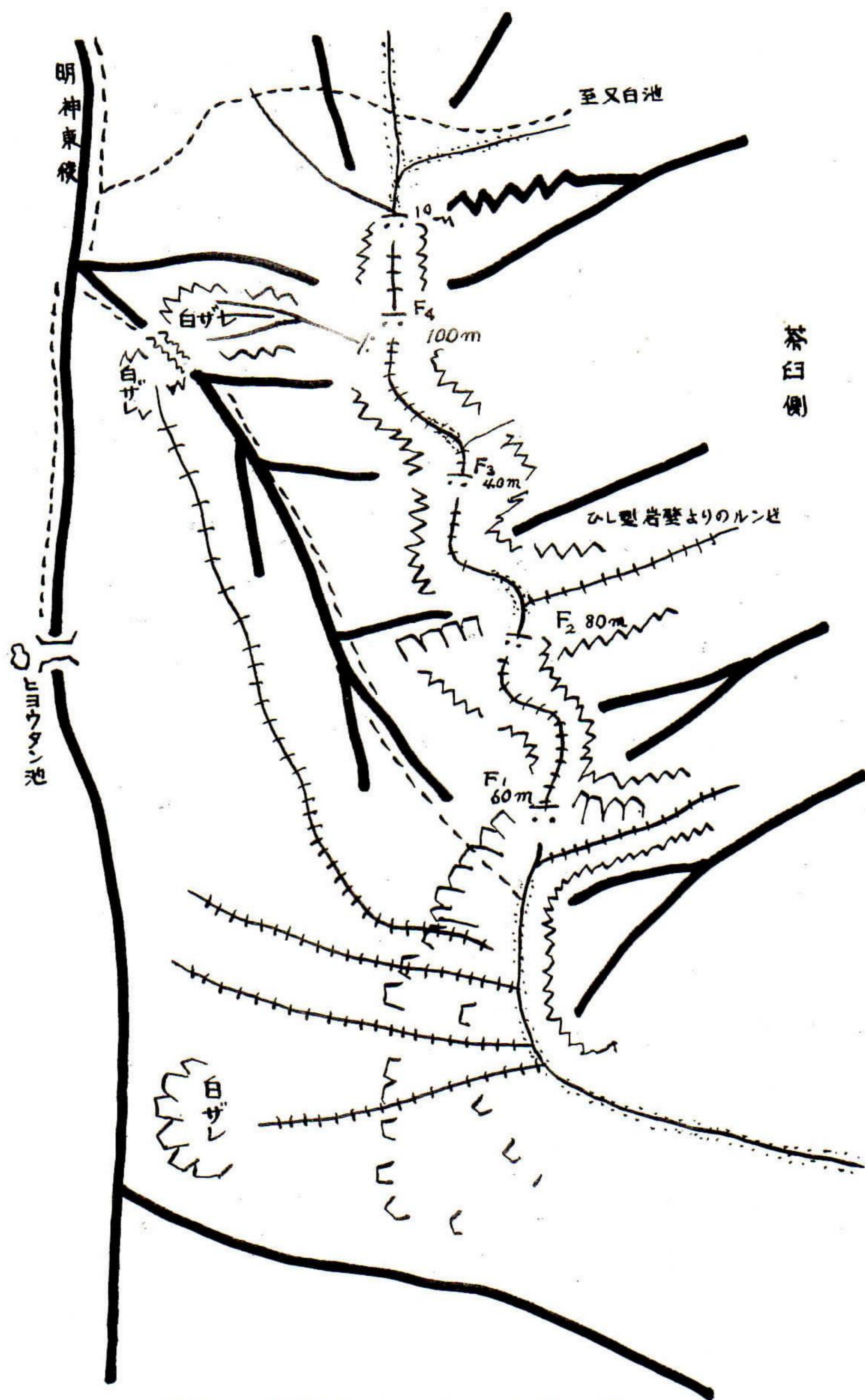
が、スラブ帯の右側に垂直のリッジがある。そこまでゆけば、上は抜けられるのではないか、こう云う様な事になり、トップは、ガリ-から4米程右へ、スラブ帯の上端に出て、ザイルトラヴァ-ス用に、アイスピンを打ち込む。

ザイルトラヴァ-ス15m程で、垂直のリッジの基部の草付きレッジに出たが、そこからリッジを廻り込んで裏側の草付ガリ-に入る事は困難であるので、5m程スラブを登ってカン木テラスに立つ。そこから真横に、モロくなった岩角をたよりに、リッジを廻り込んで、ガリ-に入り、灌木にてピレ-をする。

灌木帯を40m、3ピッチでヒョ-タン池より派出する稜の上へ出た。

F1以上の下又は、まだ誰にも知られていないと見聞いた。谷はF1の上で左に折れ、右から落差80mのハンクしたチムニ-滝が落ちている。その両岸は、鋭く切れ、美しいスラブのゴルジュとなっている。

F1からF2の間に小滝の有無は、雪溪がビッシリと残っているので判明しない。F1の上に茶臼より落ち込む、高差600m程のスラブ状ルンゼがあり、その左奥には、上から下まで全てハン



下又白谷下部ゴルジュ帯概念図
(山田作図)